

ワタシ、誰と結婚したい？

上昇婚志向とジェンダー平等

愛知県立旭丘高等学校

日本のSDGs達成状況



<日本の最大の課題>

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

目標12「つくる責任 つかう責任」

目標13「気候変動に具体的な対策を」

目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」

出典:「世界のSDGs達成度ランキング、日本は15位 昨年と変わらず」,
<https://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1193050_1501.html>(参照2019-08-22)



ジェンダー平等を実現しよう

<特に達成されていない項目>

- ・女性国会議員の数の少なさ

☒ 無償労働を行う時間の男女格差

☒ 男女の賃金格差

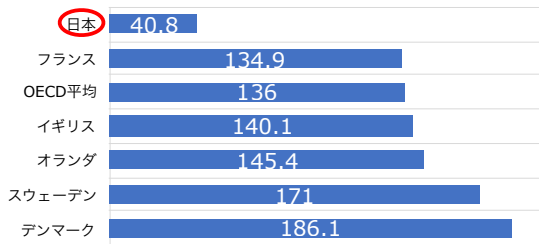
出典:「世界のSDGs達成度ランキング、日本は15位 昨年と変わらず」,
<https://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1193050_1501.html>(参照2019-08-22)

第一章

無償労働を行う時間の男女格差

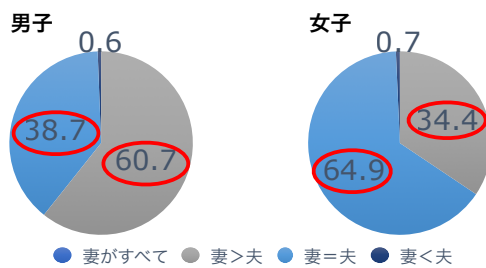
日本の男性は圧倒的に無償労働時間が短い

休日を含む1日当たりの男性の無償労働時間(単位:分)



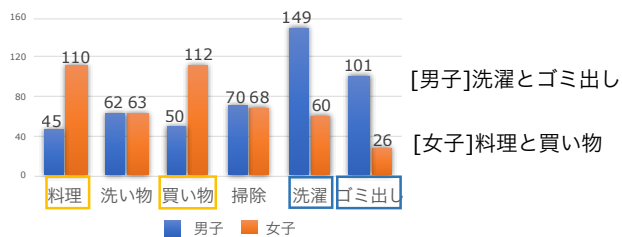
出典:OECD「Employment : Time spent in paid and unpaid work, by sex」
<https://stats.oecd.org/index.aspx?queryid=54757> (参照2019-08-24)

旭丘生の理想は、夫婦間での家事分担



旭丘高校・家事と政治に関する意識についてのアンケート(有効回答数 男子177 女子158 合計335), 2018年実施

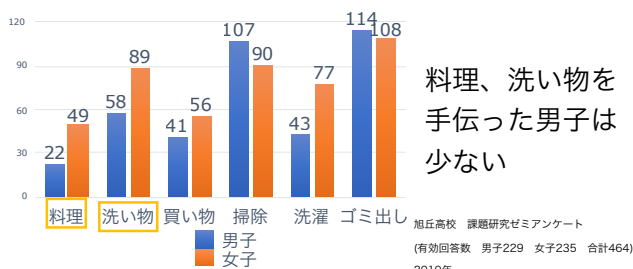
しかし、結婚後、自分がやりたい家事は



旭丘高校・家事と政治に関する意識についてのアンケート
 (有効回答数 男子177 女子158 合計335), 2018年

時間がかかるものは**女子**が多く望む傾向がある

背景には、小学生の時のお手伝いが



旭丘高校 課題研究ゼミアンケート
 (有効回答数 男子229 女子235 合計464)
 2019年

やり慣れている家事をやると思う

まとめ

性別にとらわれない

お手伝い（家事）経験が必要



親となった時に実践しよう

第二章

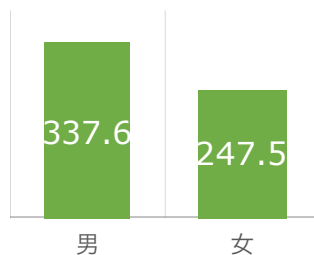
男女の賃金格差

家事分担と賃金格差

男女別所定内給与（単位：千円）

- ・女子が家事を多く負担
- ・そのかわりに男子は長時間働く

→男女の賃金格差が生まれる



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」
2018年

賃金格差が生じる理由

<仮説>

- ①格差を生む**制度**の存在
- ②**労働形態**の男女差
- ③結婚相手に対する**意識**の男女差

<検証>①制度

・男女雇用機会均等法の施行（1986）

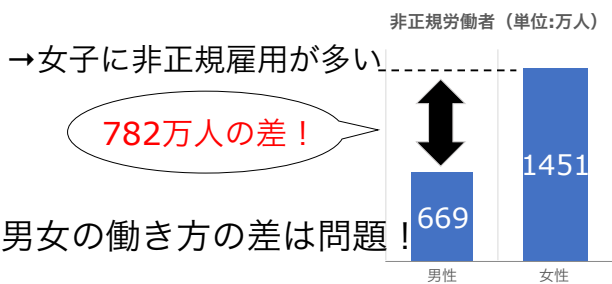
第5条「事業主は、労働者の募集及び採用について、その性別にかかわらず均等な機会を与えなければならない。」

・改正「育児・介護休業法」の施行（2017）

=男女ともに取得できる育休制度の充実

法律、制度上は男女平等が実現されてきている

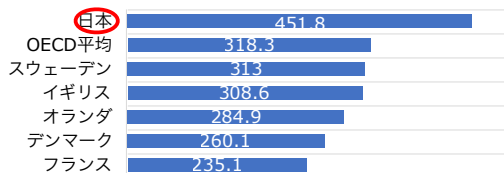
しかし、男女の賃金格差は縮まらない



出典:「労働力調査(基本調査)」(統計局,2018年)

<検証>②労働形態

休日を含む1日当たりの男性の平均労働時間
(分)



日本は長時間労働が当たり前=家事育児と両立しづらい
働き方改革を進めるにはどうすればよいか？

出典:OECD「Employment : Time spent in paid and unpaid work, by sex」
<<https://stats.oecd.org/index.aspx?queryid=54757>> (参照2019-08-24)

労働時間を短縮したオランダの例

1970年代

財政悪化などにより景気が低迷、社会が混乱
失業率14%に



改革に取り組む

1982年

ワッセナー合意

政府、経営者、労働者組合の三者で協定締結

ワッセナー合意

経営者 ワークシェアリングによる雇用の確保
労働組合 賃金上昇の抑制
政府 社会保障の費用負担抑制 減税の実施

ワークシェアリングとは

<それまで>



1日8時間×週5＝40時間

仕事を二人で分担して
雇用を確保

<これから>



1日4時間×週5
＝20時間



1日7時間×週3
＝21時間

そのためには、正規雇用者の短時間労働者化
&
短時間労働者の正規雇用者化

方法① 同一労働同一賃金の法定化

同じ内容の仕事には、フルタイム・パートタイム
の労働形態に関係なく同じ賃金を支払う

→パートタイマーでもしっかり稼げるように

方法② 待遇の平等化

フルタイムもパートタイムも、等しく年金や育児休
暇制度などを利用できる

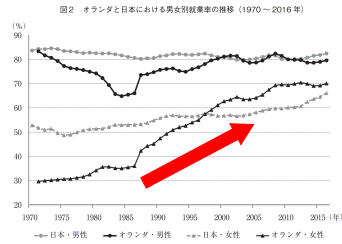
→育児や介護と両立しやすくなった

[結果] ワークシェアリングが実現

改革の効果①

・「仕事、家事、育児を分担する」意識が芽生えた

・就業形態の自主的な選択

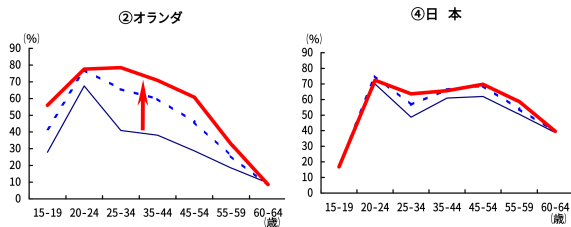


働く女性が急増

出典:権丈英子「オランダの労働市場」『日本労働研究雑誌』通号693,2018.4,p50

オランダと日本の女性労働力率の比較

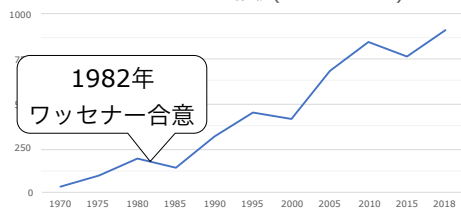
青の実線→1980年 青の点線→1990年 赤線→1999年



出典:「世界経済の潮流 2002年春 世界に学ぶ—日本経済が直面する課題への教訓 (税制改革、ワークシェアリング)」(内閣府,2002)

改革の効果②

オランダGDPの推移(1970～2018)



出典:The World Bank 「GDP (current US\$)」

<<https://data.worldbank.org/indicator/NY.GDP.MKTP.CD>>(参照2019-08-24)

労働改革によって、景気も回復&成長

改革の効果③ 子どもの幸福度1位に

先進国における子どもの幸福度ランキング

総合順位	国名	平均順位	第1の分野 物質的豊かさ 順位	第2の分野 健康と安全 順位	第3の分野 教育 順位	第4の分野 日常生活上のリスク 順位	第5の分野 住居と環境 順位
1	オランダ	3.2	2	5	2	3	4
2	フィンランド	5.0	1	3	5	10	6
2	アイスランド	5.0	4	1	10	5	5
4	ノルウェー	5.4	3	8	7	6	3
5	スウェーデン	6.0	5	2	12	2	9
6	日本	9.8	21	16	1	1	10
7	ドイツ	10.4	10	13	4	11	14
8	スイス	11.0	11	12	17	13	2
9	ルクセンブルク	11.4	6	4	24	16	7
10	ベルギー	11.6	15	11	3	17	12

出典:「先進国における子どもの幸福度」(国立社会保障・人口問題研究所,2013)

家族との時間

ワークシェアリングにより
一人当たりの労働時間が減少

家族と過ごす時間が増加

子どもの幸福度 上昇

「物質的豊かさ」が低い日本

日本は31カ国中**21位** オランダは2位

“相対的貧困率”と“貧困ギャップ”が深刻

=所得格差の拡大が子どもの貧困を招いている

シングルマザーの貧困

家事育児を一人でこなすシングルマザーの多くは
非正規労働者
=収入が少なく、手当もない

	世帯全体	母子世帯	父子世帯
平均収入	545.4万円	243万円	420万円

出典:平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果報告(厚生労働省,2016年)

ワークシェアリング導入時の問題点

労働者を増やして仕事をシェアする分、一人当たりの
給料が減ってしまう

→現正社員からの反発

なぜ反発が起きる？

夫は「家計は俺が支えるんだ」

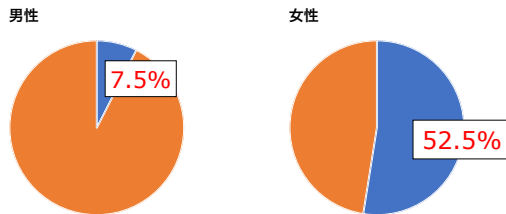
妻も「あなたに期待しているわ」

＜検証＞③意識

日本の女性は上昇婚志向が強く、
男性もそれに応えようとする

「上昇婚」
自分よりも経済的・社会的に上の立場の人と結婚すること

結婚相手に「経済力」を求める人の割合



世論調査 出典:「結婚・家族形成に関する意識調査」(内閣府,2014)

結婚生活への不安（世論調査）

＜結婚生活について不安に感じる事＞

	日本	フランス	スウェーデン	イギリス
増殖生活にかかるお金	37.3	23.5	9.3	23.3
お互いの親の介護	35.9	8.7	13.1	6.0
お互いの親族との付き合い	32.6	23.9	16.1	18.4
子供の育て方	24.8	26.7	15.0	17.1
二人の間で起こる問題の解決	23.6	33.4	35.4	25.2
子供の教育	23.5	13.3	8.6	10.4
二人の相性	21.6	41.4	26.7	34.4
自分の自由の制約	18.3	23.2	17.7	17.0
お互いの前の配偶者やパートナーとの子供への向き合い方	12.5	15.1	13.6	8.6
雇用が安定していない	10.1	17.2	8.7	8.4
子供ができない可能性	5.0	6.2	8.7	4.1

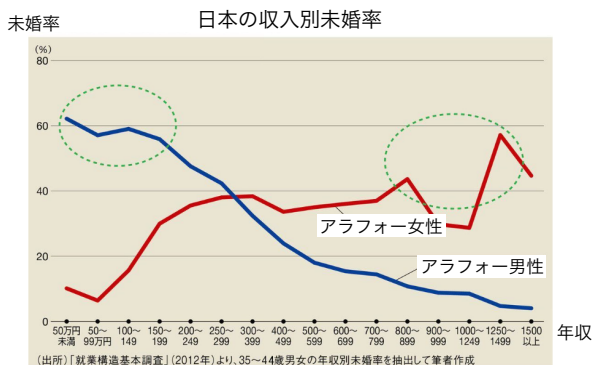
注:その他、特になし、わからない、無回答は表示を省略
日本と比べて、10%以上高い項目を太字、10%以上低い項目に網掛け。

夫の収入に頼らざるを得ない現状→「相性<お金」

出典:「平成27年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」(内閣府,2015)

[一番気にしているもの]
日本...お金
欧州...カップル間の相性
=本来一番大切なこと

しかし、女子の上昇婚とジェンダー平等は両立しない

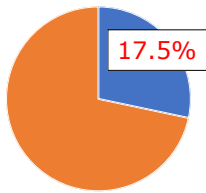


出典:東洋経済オンライン「女性が直面する『稼ぐほど結婚できない』現実」
<<https://toyokeizai.net/articles/-/175446?page=2>>(参照2019-08-24)

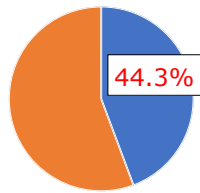
結婚相手に「経済力」を求める高校生の割合

旭丘高校 課題研究ゼミアンケート(有効回答数 男子229 女子235 合計464), 2019年

男子

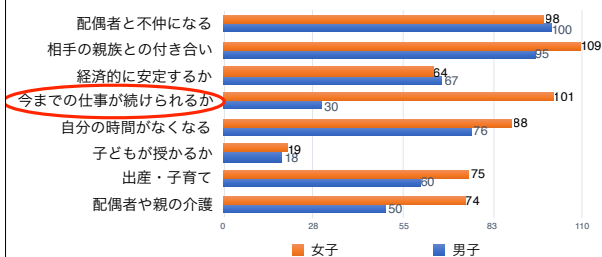


女子



高校生も、女子は結婚相手に経済力を求めている

結婚生活の不安 (旭丘高校生)



旭丘高校 課題研究ゼミアンケート(有効回答数 男子229 女子235 合計464), 2019年

まとめ

女性が結婚相手に経済力を強く求めなくなれば
→男性も無理して長時間労働をする必要がなくなる

[女性]

上昇婚志向を捨てる＝自活する覚悟を持つ

[男性]

女性がバリバリ働くことを受け入れて家事も分担

お金だけではない人生のパートナーと出会うべき

最後に

意識が変われば、労働形態・家事分担が変わる
＝ジェンダー平等が実現

昨年の校内でのジェンダー平等ワークショップの様子



女子の貧困をなくすためには政治を変える必要
しかし、多くの者が「個人の力では政治は変えられない」と思う。

ワークショップ実施

「個人の力で政治が変わる」という意見が3倍に

★今年も3月に校内ワークショップを実施

高校生の時点ですでに持っている
パートナーを求める
男女の意識差の問題を知ってもらう
